

# 兵庫県のカミキリモドキ

(兵庫県甲虫相資料・248)

高橋寿郎

日本産カミキリモドキ科 (Oedemeridae) については、河野 (1937) が旧領土内のものをまとめ、戦後になって中根 (1953, 1955, 1956, 1988), Nakane (1973) がこの類の研究を行い、43種を原色で図説している (1963)。新しいところでは宮武 (1985) が49種 (注記を入れると52種) を原色図説している。したがって同定については比較的やり易いグループと考えられる。一般には花上や葉上に見られ、灯火に飛来する種もあつたりする。幼虫は朽木に棲む。しかし、生活史など詳しく調べられている種は、ほとんどないように思われる。

日本産の既知種は1989年出版の“日本産昆虫総目録 I”によると14属59種 (但し亜種も数えられている) で、本州産は39種となっている (この数字は日本産の70~89%に相当する)。

黒佐 (1958) は、日本産カミキリモドキ科各種の分布、生態、病害性の概要を述べた貴重な論文を発表している。

本科の生態については前記したように詳しい報告はないようであるが、幼虫形態の報告には次のようなものがある。

ツマグロカミキリモドキ (Rozen, Misc. Pub. Soc. Amer., Vol. 1, No. 2, 1960)、キイロカミキリモドキ (藤村, 1956)、アオカミキリモドキ (林, 1953・1959)、モモブトカミキリモドキ (Hayashi, 1975)、アオグロカミキリモドキ、ハイイロカミキリモドキ (林, 1980)。

兵庫県産のこの類についてのまとまったものとしては、かつて筆者が15種を報告したものがあつたりである (1962)。もちろん部分的な報告はあり、黒佐の論文中にも神戸の記録が含まれている。その後追加種とか新分布地が多くあつたりするので、現時点でこの類をまとめておきたい。現在、兵庫県産として21種が分布していることが判っている程度で、まだまだ調査が不十分だと考えられる。

最近、佐々治 (1987) はブラハのSvihlaの「旧世界カミキリモドキ科の分類」(1985) を紹介し、Svihlaに従うと日本産のカミキリモドキの学名も大幅に改訂しなくてはならないとしている。今回の報文では“日本産昆虫総目録 I” に用い

られた学名に拠っている。

Family Oedemeridae カミキリモドキ科

1. *Nacerdes melanura* (Linnaeus, 1758) ツマゲロカミキリモドキ

世界に広く分布している種である。図説も多い。黒佐によると、阪神地方では成虫の出現は5月中旬～7月上旬で、昼間よく飛翔しアカメガシワなどの花に集まり、また夜間灯火にも飛来する。

海に近い地方に多い種で、兵庫県下でも淡路島とか神戸市内などでは見られるが、県中央部から北にかけて全く知られていない。

幼虫は朽木の材部に穿孔し、初夏のころから朽木内で蛹化する。

産地：洲本市先山[堀田, 1978]；伊丹市[川上, 1984]。Kobe[Lewis, 1895]，神戸市烏原(1ex., 5.VI.1952, 1ex., 21.VI.1952, 1ex., 26.V.1952, 2exs., 1.V.1969, 1ex., 29.V.1977, 1ex., 26.V.1983)，山の街(1ex., 30.V.1954, 3exs., 1.1.VI.1958)。飾磨郡家島[上田, 1981]

2. *Opsimea nigripennis* (Matsumura, 1911) クロカミキリモドキ

Matsumura (1911) によってサハリン産で *Oedemera* 属として記載された種である。その後、玉貫 (1931) はこの種の♂♀の区別を中心にその形態を述べるとともに、*Nacerdes* 属に属すべき種であるとした。さらに、Kôno (1934) は *Ezonacerda* 属を創設、それに属せしめると共に、分布をサハリン、千島、北海道とした。中根 (1954) は本種が本州 (日光、上高地、大台ヶ原その他) に分布することを報告した。図説は河野 (1950)、中根 (1963)、宮武 (1985) のものがある。これらの属名はもちろん全部 *Ezonacerda* であるが“日本産昆虫総目録”では *Svihla* の説による *Opsimea* 属として扱われている (1989)。現在の分布は本州山地帯、北海道、南千島、サハリンである。黒佐 (1958) は、日中に花上から得られるものがその大部分で、おそらく昼行性で灯火に飛来しないものであろうと記している。筆者は未採集であるが、県下での記録に次のものがある。よく調べなくてはいけない種である。

産地：養父郡氷ノ山[高橋匡採集, 大槻, 1957]

3. *Xanthochroa atriceps* Lewis, 1895      キクビカミキリモドキ

Lewis (1895) により “Chiuzenji. Two examples taken in August” として記載された。北海道では多数が家屋内に飛来して人体皮膚にしばしば火傷様の小泡を生ぜしめるので、俗にヤケドムシあるいはデンキムシなどと呼ばれて恐れられているという（黒佐, 1958）。

北海道、本州より九州に至る山地に産し、サハリンと南千島にも分布する。北海道には普通に産し、本州の中央山岳地帯にはさほど稀ではないが、近畿以西では深い山地に局地的に棲息しているようである（黒佐, 1958）。

図説には河野（1950）、中根（1963）、宮武（1985）がある。

兵庫県下では珍しいようで、筆者が氷ノ山で採集した以外記録を知らない。

産地：養父郡氷ノ山(1ex., 22. VII. 1956)

4. *Xanthochroa caudata* Kôno, 1936      シンナガカミキリモドキ

Kôno (1936) によって記載された種である。♀の尾端節は長く、♂の生殖節も長く後方へのびて上翅をこえ、陰茎はさらに後方へ突出する特徴を有する。分布は本州、四国、九州であるが、北の方では少ないようでどちらかといえば南の方に多く、あまり普遍的な種ではないようである。兵庫県下でもそれほど多くはないようである。

図説には河野（1950）、中根（1963）、宮武（1985）がある。灯火や花上などで得られる。毒性を有することであるが、病害の実例は知られていない。幼虫は針葉樹の朽木中へ穿孔する。

産地：川西市一の鳥居(1ex., 17. VI. 1954)、飾磨郡雪彦山(1ex., 14. VII. 1957)。

宍粟郡音水(2exs., 11. VI. 1972, 2exs., 25. VI. 1972, 1ex., 15. VII. 1953)。

水谷(1ex., 17. VII. 1981)、養父郡氷ノ山(1ex., 21. VII. 1958, 1ex., 25. VII. 1959)

5. *Xanthochroa hilleri* Harold, 1878      キイロカミキリモドキ

Harold (1878) が記載した。種名にあるようにHiller, Reinholdの採集品で名付けられたものであり、萩産と思われる。

体の上下面ともに明るい黄褐色～（橙）黄色で、すぐわかる種である。

北海道、本州、四国、九州に広く分布している。兵庫県下でも広く分布してい

る。

黒佐（1958）によると神戸付近では5月中旬～7月中旬に出現し、夜間しばしば灯火に飛来するが、昼間栗の花上から得たこともあるという。筆者も栗の花からは度々採集しているし、波賀町水谷ではノリウツギに来ているものを多く採集したこともある。幼虫は針葉樹の朽木中に穿孔する。図説は河野（1950）、中根（1963）、宮武（1985）とあり、前記したように幼虫、蛹の図説がある（藤村、1956）。

中根（1988）は、本種には地方的な変異があるとして中部以北のものはsubsp. *kurosai* Nakaneと記載している。

産地（筆者採集所有標本は非常に多いので、産地名のみ記す）：川西市猪名川町三草山。川西市見野。笹部。大和〔仲田，1978〕，一の鳥居，能勢妙見山。伊丹市〔河上，1984〕。神戸市〔黒佐，1958〕，六甲山，二十渉，藍那，妙法寺，蓬山峡。明石市明石公園。三木市細川中，口吉川。小野市山田。美嚢郡吉川町。加西市畑。多可郡三谷。加東郡東条町森，社町三草。飾磨郡雪彦山。神崎郡大河内町川上。相生市三濃山。宍粟郡水谷，音水，坂の谷。氷上郡〔山本，1958〕，山南町。出石郡但東町中藤〔高橋，1963〕。豊岡市妙楽寺，福田〔高橋，1975〕。城崎郡三川山〔高橋，1975〕。養父郡氷ノ山。美方郡鉢伏山〔高橋，1975〕，扇ノ山〔辻，1963.，辻・岸田，1972〕

#### 6. *Xanthochroa kato* Kôno, 1932      カトウカミキリモドキ

Kôno（1932）が“2♀♀，Berg Amagi 10.VII.1929，S.Kato leg.”で記載した種である。アオカミキリモドキ *X. waterhousi*によく似ているが、尾部の構造によって識別できる。本州，四国，九州，屋久島に分布していて、本州では関東以西の山地と平地のいずれにも棲息するようである。中部地方の山岳地帯には棲息していないようである（黒佐，1958）。成虫は5，6月頃現れ、夜間灯火に飛来する。黒佐（1958）によると、毒性は実験的に認められるが病害例は未だ見ないという。

兵庫県下ではそれほど多くいるとは思われないが、分布は広いようである。

産地：川西市能勢妙見山（1♂，30.VII.1982）。神戸市蓬山峡（1ex.，1.VII.1986）。飾磨郡雪彦山（5exs.，14.VII.1957）。神崎郡笠形山（1ex.，12.VI.1966）。

多可郡鳥羽(1ex.,5.VII.1975). 宍粟郡音水(2exs.,11.VI.1972). 美方郡  
扇ノ山[辻・岸田, 1972]

7. *Xanthochroa luteipennis* Marseul, 1876      キバネカミキリモドキ

Marseul (1876) により“Japan”を産地に記載された(G.Lewisの採集品. Ann.  
Soc.Ent.France, V.6:486).

体が黒色で上翅が黄褐色なので、他種からの区別は簡単。北海道から九州まで  
分布し、屋久島までいるそうである。朝鮮半島にも産する。花上、灯火に来る。  
兵庫県下でも広く分布し、特に神戸市内では花に来てのものが多く採集できる。

黒佐(1958)によると、病害の実例はないが実験的には毒性は認められる。

幼虫は針葉樹の朽木の中へ穿孔し、初夏のころ朽木中で蛹化する。

産地：川西市能勢妙見山(4exs.,30.VII.1982). 川西市見野, 大和, 笹部[仲田,  
1970,1978,1982]. 神戸市山の街(1ex.,1.VI.1958), 蓬山峡(2exs.,2.VII.  
1982, 3exs.,1.VII.1986, 1ex.,27.VI.1987, 4exs.,7.VII.1987), 鳥原(  
1ex.,4.VII.1976, 1ex.,25.VI.1979, 1ex.,20.VI.1982, 1ex.,5.VI.1981,  
1ex.,7.VI.1981, 1ex.,9.VI.1981, 1ex.,16.VI.1981, 1ex.,17.VI.1981,  
1ex.,29.V.1983, 1ex.,5.VI.1985). 小野市山田(1ex.,23.VI.1987).  
加東郡社町三草(2exs.,6.VII.1989, 1ex.,14.VII.1989), 加西市畑(3exs.,  
21.VI.1975). 神崎郡大河内町川上(1ex.,18.V.1977, 1ex.,23.VI.1977  
)。宍粟郡水谷(2exs.,17.VII.1981), 音水(1ex.,15.VII.1973). 氷上郡  
[山本, 1958]. 豊岡市妙楽寺[高橋, 1975]. 養父郡氷ノ山(1ex.,27.VII.  
1957, 2exs.,21.VII.1958). 美方郡鉢伏山[高橋, 1975], 扇ノ山[辻・岸  
田, 1972]

8. *Xanthochroa osawai* Nakane, 1954      オオサワカミキリモドキ

“Mt.Komagatake, Koya, Hiei, Hirakura, Daisen, Hiko”を産地にNakane(19  
54)が記載をおこなった種である。

キイロカミキリモドキとは体背面が橙黄褐色～黄色である点で似ているが、腹  
面大半が尾端部を除き暗褐色であり、上翅端が多少黒ずんでいるので区別できる。

本種は北海道から九州までの山地に少ないながら分布しているようである。実  
験的には毒性が認められる(黒佐, 1958)。図説には中根(1963)、宮武(1985)

がある。

兵庫県下からは次の記録があるのみである。

産地：美方郡扇ノ山[辻・岸田，1972]

9. *Xanthochroa spinicoxis* Nakane.1954      コゲチャカミキリモドキ

Nakane (1954) により “Mt.Ohdaigahara, Kamikochi, Shimashima” 産で記載された。

本州の中部，近畿の山地に産し，少ない。四国に産するものは subsp. kiraii Nakane, 1954 とされている。

兵庫県下でも氷ノ山で得たのみで，分布のよくわからない種である。

産地：養父郡氷ノ山(lex., 21.VII.1958)

10. *Xanthochroa wadai* Nakane.1954      ワダカミキリモドキ

Nakane (1954) により神戸市摩耶山産 1 ♂ (26.VI.1949, Y.Wada leg.)，神戸産 1 ♀ (17.VII.1949, S.Shibanai leg.)，九州佐多岬産 1 ♀ (24.V.1952, S.Asahina leg.) をタイプとして記載された種である。

本種は山麓地帯から低山地にわたって棲息しており，夜間灯火に飛来すること。

図説には中根 (1963)，宮武 (1985) がある。

筆者は未採集であるが，六甲山の紅葉谷あたりには割合いるようである。

産地：神戸市摩耶山[Nakane, 1954., 黒佐, 1958]

11. *Xanthochroa waterhousei* Harold, 1875      アオカミキリモドキ

Harold (1875) によって記載された種である。Hiogoからは Heyden (1879) が記録している。

日本ではきわめて普通な種で，体は黄色～橙黄褐色で上翅は緑色，時に青藍または鋼紫色をおびる。近似の他種とは♂の交尾器節の2葉片の左右が相合わさった形であること，♀では尾端先端部が湾入していないことで区別できる。

夏灯火に飛来し，人にふれて体液のカンタリジンで皮膚炎をおこすことがよく知られている。

幼虫は針葉樹の朽木に穿孔し，材木を食べて育つとのことである。本種の幼虫

についての研究は、林（1953, 1959）がある。

産地：洲本市安乎町[堀田, 1978]。川西市大和, 笹部[仲田, 1978, 1982], 能勢妙見(lex., 30.VII.1982)。伊丹市[河上, 1984]。Hiogo[Heyden, 1879]。神戸市御影[関, 1933]。摩耶山(lex., 15.VI.1979), 烏原(lex., 24.V. 1953, lex., 10.VI.1972, lex., 2.VII.1972, lex., 28.V.1972, lex., 20.VI.1973, lex., 3.VII.1979, lex., 15.V.1981, lex., 10.VI.1981, lex., 7.VII.1984, lex., 8.VI.1990), 山の街(lex., 3.VII.1955), 藍那(lex., 5.VII.1978), 一の谷(lex., 17.VI.1953), 妙法寺(lex., 23.VI.1979), 蓬山峡(2exs., 2.VII.1982), 須磨[戸沢, 1936], 多井畑(lex., 19.VI.1990)。加西市畑(lex., 17.VI.1974, 6exs., 23.VI.1974, 9exs., 29.VI.1974, lex., 21.VI.1975)。神崎郡大河内町川上(lex., 4.VI.1977, 2exs., 18.V. 1977, 2exs., 6.VIII.1977)。氷上郡[山本, 1958]。山南町(lex., 11.VII. 1990)。豊岡市愛宕山[高橋, 1975]。宍粟郡坂の谷(2exs., 22.VII.1979)。養父郡氷ノ山(2exs., 27.VII.1956)。美方郡扇ノ山[辻・岸田, 1972], 鉢伏山[高橋, 1975]

12. *Chrysanthia viatica* Lewis, 1895      スジカミキリモドキ

Lewis (1895) が “Wada-toge, on the 1st August, 1881 in profusion; Tsu-mago, Torii-toge, Suwaratake, Sapporo” を産地に記載した種である。サハリン、千島、北海道および本州に分布する。本州では山地にのみ産するようである。成虫は花上に見られるが、灯火には全く飛来しないとのこと。昼行性のようである。図説は河野（1950）、中根（1963）、宮武（1985）がある。前胸背が鈍い銅色で、上翅がかすかに藍光沢をおびたものがある（ab. obscuricolor Iga et Nakane）。幼虫は朽木に穿孔する。

宍粟郡音水で採集したものがこの種と思われる。

産地：宍粟郡音水(2exs., 25.VI.1972)

13. *Asclera nigrocyanea* Lewis, 1895      アオグロカミキリモドキ

Lewis (1895) により “Oyama in Sagami, Nikko and at Nagasaki on Mitzudake” を産地で記載された種。

北海道では7月頃出現し、本州では春～初夏にタンポポの花上に見られる。

図説には河野（1950），中根（1963），宮武（1985）がある。

産地：川辺郡猪名川町木間生，槻並中[仲田，1982]．美方郡扇ノ山[辻，1963，  
辻・岸田，1972]．相生市三瀬山[lex.,8.VI.1974]

14. *Asclera brunneipennis* Lewis,1895      ハネアカカミキリモドキ

Lewis（1895）により“Hakodate. Two examples only”として記載された種。  
北海道から本州，四国，九州に分布．昼行性で灯火には飛来しないといわれて  
いる。

兵庫県下では山地性のようで少ない種類である。

産地：養父郡氷ノ山[lex.,25.VII.1959][黒佐，1958]．美方郡扇ノ山[辻・岸田，  
1972，高橋，1975]

15. *Eobia cinereipennis* (Motschulsky,1866)      ハイイロカミキリモドキ

本州，四国，九州，琉球，小笠原，朝鮮半島南部に分布し，南琉球にsubsp.  
*ogasawarensis* Matsumuraを産する．図説には河野（1950），中根（1963），宮  
武（1985）がある。

沿海性で海岸付近に多く，灯火に飛来し，花にも来るとあり，特に島嶼に多産  
する傾向があるというが，家島とか淡路島での記録を知らない．筆者も未採集．  
調査を要する種である．幼虫については林（1980）の研究がある。

産地：神戸[黒佐，1958]

16. *Eobia ambusta* Lewis,1895      ズグロカミキリモドキ

Lewis（1895）により“Nagasaki.in flowers of Clerodendron”産で記載され  
た種である．河野（1938）は本種を，*Eobia chinensis* Hopeの本州，四国，九州，  
琉球北部に分布する1亜種とした．本州，九州の産地については黒佐（1944，  
1958）が詳しく述べている。

Lewis は花に来ているのを採集したようであるが，黒佐によるとほとんどが夜  
間に飛来したものであるらしい．海岸に近い地域に産するようである．兵庫県下  
の記録は黒佐のものしか知らない．調査が不十分である。

産地：神戸市東灘区本山町[武庫郡本山村][黒佐，1944，1958]

17. *Eobia florilega* Lewis, 1895      ハラゲロランブカミキリモドキ

Lewis (1895) により “Kobe: three examples. I have also found in Foochow, China” として記載された種である。

本州南部より沖縄，台湾，中国に分布する。本種も筆者未採集で，記録もほとんどない。調査が必要である。

産地：神戸 [Lewis, 1895., 黒佐, 1958]

18. *Oncomerella venosa* (Lewis, 1895)      マダラカミキリモドキ

Lewis (1895) により “Kiga, Hakone and Miyanoshita. Repeatedly beaten from pear and cherry-blossoms in May” として図入りで *Oncomera* 属で記載された種。

山地性なのか県南部の海岸線沿いの地域では知られていない。灯火にも飛来する。図説には河野 (1950)，中根 (1963)，宮武 (1985) がある。

産地：宍粟郡福地溪谷 (lex., 20. VI. 1976)，音水 (lex., 21. V. 1959, lex., 21. V. 1972, lex., 13. V. 1973)，赤西 (lex., 27. V. 1979)。氷上郡 [山本, 1975]。城崎郡竹野町三原，三川山 [高橋, 1975]。養父郡氷ノ山 [高橋, 1959, 1975]。美方郡扇ノ山 [辻, 1963., 辻・岸田, 1972]

19. *Oedemeronia lucidicollis* (Motschulsky, 1866)      モモブトカミキリモドキ

最も普通に見られる種である。平地では春～初夏，花上に集まる。分布は千島，北海道，本州，四国，九州と広い。図説には湯浅・河野 (1950)，中根 (1963)，宮武 (1985) がある。幼虫については Hayashi (1975) の研究がある。

兵庫県下にも広く普通に分布している。

産地 (筆者採集所有標本は非常に多いので，産地名のみ記す)：洲本市先山 [堀田, 1978]。津名郡岩屋。川西市一の鳥居，笹部。川辺郡猪名川町木間生 [仲田, 1978, 1982]。伊丹市 [河上, 1984]。神戸市保久良山，鳥原，山の街，谷上，北鈴蘭台大山公園，丹生山，木津，妙法寺，須磨，舞子，多井畑。三田市内。加東郡東条町森，社町三草。小野市山田。美嚢郡吉川町，奥山。神崎郡笹形山，大河内町川上。多可郡鳥羽。竜野市神岡町。相生市三濃山。宍粟郡音水，坂ノ谷。氷上郡 [山本, 1958]。豊岡市大岡山 [高橋, 1975]。城崎郡城崎，日高町奈佐路，竹野町三原，三川三 [高橋,

1975]. 養父郡氷ノ山. 美方郡扇ノ山[辻, 1963., 辻・岸田, 1972]

20. *Oedemeronia manicata* (Lewis, 1895) キアシカミキリモドキ

Lewis(1895)により“Plain of Fujisan, Nikko, Miyanoshita, Kashiwagi and Oyama”を産地に*Oedemera*属で記載された。

図説には湯浅・河野(1950), 中根(1963), 宮武(1985)がある。

本種も普通に産する。前種と同じく花上に見られる。幼虫は枯れたススキの茎に穿孔するようだと記録されている(Hayashi, 1975)。

産地：川辺郡猪名川町上阿古谷, 木間生[仲田, 1978, 1982]. 川西市一の鳥居, 笹部, 大和[仲田, 1978]. 神戸市丹生山(2exs., 18.V.1958), 谷上(2exs., 5.V.1955, 1ex., 1.VI.1985, 1ex., 5.V.1988). 三木市大村(3exs., 10.V.1990). 神崎郡大河内町川上(1ex., 3.V.1977, 1ex., 24.V.1977, 3exs., 4.VI.1977). 竜野市神岡町(2exs., 26.V.1988). 相生市三濃山(2exs., 3.V.1969, 6exs., 7.V.1972, 2exs., 3.V.1974, 6exs., 12.V.1974, 1ex., 18.V.1974, 2exs., 8.VI.1974). 宍粟郡福地溪谷(2exs., 20.VI.1976), 原(11exs., 11.V.1979), 音水(3exs., 31.V.1970, 5exs., 21.V.1972, 9exs., 11.VI.1973). 氷上郡[山本, 1958]. 城崎郡日高町奈佐路(1ex., 22.V.1986, 3exs., 14.VI.1986). 養父郡氷ノ山[高橋, 1975]. 美方郡扇ノ山[辻, 1963., 辻・岸田, 1972]

21. *Oedemeronia sexualis* (Marseul, 1876) フタイロカミキリモドキ

Marseul(1876)により“Japan (Nagasaki)”より*Oedemera*属で記載された。♂は肥大した後腿節が橙黄色なので著しいが、♀も肢が一様に緑色であるのに対し腹部が橙黄色なので容易に見分けられる。

本州, 四国, 九州, 対馬, 奄美大島, 沖縄に産し, 本州では西南部の比較的温暖な地域に分布する。成虫は日中花上に見出されるが, 灯火に飛来しない(黒佐, 1958)。図説には河野(1950), 中根(1963), 宮武(1985)がある。

兵庫県下では淡路島と家島からのみ知られている。

産地：洲本市由良町[堀田, 1978]. 飾磨郡家島[畑中・辻, 1974]

以上, 兵庫県産カミキリモドキ21種の県下の分布を中心に報告させて頂いた。

分布のよくわからないものも結構いるし、また分布が新たに確認できそうな種もいくらかいそうで、より一層の調査を続けてゆかなくては分布相を云々するにはまだ不十分である。なお、カミキリモドキ科に近縁なものとしてクビナガムシ科 (Cephalonidae) がある。

この科については玉貫 (1927)、河野 (1936) によってその研究がおこなわれた。玉貫 (1927) は、この虫の体色の变化から変種を作っている (現在では変種としての取扱はない)。その後、中根 (1963) は原色で3種を図説した。河野 (1950) も1種図説をしている。現在の日本産は4種 (中根, 1972) といわれており、4種とも佐々治 (1985) が原色図説している。“日本産昆虫総目録 I” では4属5種になっている。これは中根 (1987) が奈良県大台ヶ原からキイカクズクビナガムシを記載しているからである。いずれも産地が比較的限られているようで、広く分布しているのはクビナガムシのみである。県下に分布が確認されているのも、この種だけである。ここに県下の産地を記しておくことにする。

#### Family Cephaloidae クビナガムシ科

##### *Cephaloon pallens* (Motschulsky, 1860) クビナガムシ

県下では南側の地域では見られず中央部から北に広く分布しているようで、その気になれば花上で多く採集できる。幼虫は枯木や朽木の中から見出されるようで詳しい生態はわかっていないが、幼虫形態については Hayashi (1963) および林 (1980) の貴重な報文がある。

体色の变化が多いことは前記したとおりで、黄褐色～黄赤色、上翅は淡黄色で、小楯板と頭紋などが一部黒色のものから大部分黒いものまである。ab. *sakurae* Lewis は中間で、頭胸背の大部分、小楯板、上翅両側と会合部、後腿節端部、後胸と胸部の大部分が黒い。兵庫県産にも変化が多い。

産地：朝来郡須留ヶ峯 (1ex., 9.VI.1975, M.Yuma leg.), 宍粟郡赤西 (24exs., 27.V.1979), 坂ノ谷 (2exs., 9.VI.1973), 氷上郡 [山本, 1958], 養父郡氷ノ山 (4exs., 27.VII.1956), 美方郡扇ノ山 [辻, 1963., 辻・岸田, 1972., 高橋, 1975]

## 参考文献

参考文献は大変多いので、ここには本報文を作成するのに参考にしたもののみを挙げた。県関係の文献は、拙編“兵庫県産甲虫類に関する文献目録，改訂版”（1981），“追加篇・I”（1984）を参照していただきたい。また、クビナガムシ科の文献も一緒にしてある。

- 秋山秀雄（1984）ハイイロカミキリモドキの一生態例，月刊むし 166:15.
- Arnett, Jr. R. H. (1948) A preliminary key to the genera of Oedemeridae of the World. *Coleop. Bull.* 2(1):13-14.
- Arnett, Jr. R. H. (1950) Generic names of the beetle family Oedemeridae and their type species. *J. Wash. Ac. Sci.* 40(7):217-225.
- Arnett, Jr. R. H. (1951) A revision of the Nearctic Oedemeridae (Coleoptera). *Amer. Midland Naturalist.* 45(2):257-351.
- Arnett, Jr. R. H. (1951) A preliminary key to the Neotropical genera of Oedemeridae. *Coleop. Bull.* 5(4):57-59.
- Borchmann, F. (1917) *W. Junk Coleop. Cat. Pars.* 68. Cephaloidea.
- 藤村俊彦（1956）キイロカミキリモドキ幼虫及び蛹について，生態昆虫 5(12):40-41.
- Harold, E. V. (1875) Beschreibung eines neuen Oedemeriden aus Japan. *Coleop. Heft.* 14:93-94.
- Harold, E. V. (1877) Beiträge zur Käferfauna von Japan. *Zwites Stück. Deutsche Ent. Zeit.* 21(3):137-169.
- Harold, E. V. (1878) Beiträge zur Käferfauna von Japan. *Zwites Stück. Deutsche Ent. Zeit.* 22(1):55-88.
- 林 長閑（1953）ナガクチキムシとカミキリモドキ，新昆虫 6(2):19-23.
- 林 長閑（1959）日本幼虫図鑑，北隆館
- Hayashi, N. (1963) On the Larvae of three species of Cephaloidea Melandryidae and Pyrochroidae occurring in Japan (Coleoptera : Cucujoidea). *Ins. Mats.* 26(2):108-114.
- Hayashi, N. (1975) On the Larvae of Melandryidae (Coleoptera, Cucujoidea)

- and Some Related Families occurring in Japan. Kontyu 43(2):147-169.
- 林 長閑 (1980) 枯木に棲息するヒラタムシ上科 (鞘翅目) の幼虫の同定手引,  
日本私学教育研究所調査資料 72:1-53, pl.53.
- 平嶋義宏監修, 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター (1989)  
カミキリモドキ科, 日本産昆虫総目録 I :409-411.
- 平嶋義宏監修, 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター (1989)  
クビナガムシ科, 日本産昆虫総目録 I :408-409.
- Kôno, H.(1932) Die Necerдинen Japans (Col.). Ins.Mats. 6(3):138-144.
- Kôno, H.(1934) Die Heteromern von Sachalin. Ins.Mats. 9(1・2):27-40.
- Kôno, H.(1936) Zwei neue Xanthochroa-Arten. Festschr.60 Geburtstage  
Prof.E.Strand. 1:516-518.
- 河野広道 (1936) 日本産頸長虫科の昆虫に就て, 昆虫界 4(23):2-8.
- Kôno, H.(1937) Neue und wenig Bekannte Käfer Japans. II .Oedemeridae.  
Ins.Mats. 11(4):135-146.
- 河野広道 (1937) 日本動物分類 No.21, 擬天牛科・頸長虫科, 三省堂
- 河野広道 (1939) 人体に水腫を生ぜしめる新害虫キクビカミキリモドキに就て,  
応用動物学雑誌 11(1):10-14.
- 河野広道 (1950) 日本昆虫図鑑, 北隆館
- 黒佐和義 (1956) 皮膚炎の原因となる日本産鞘翅目に関する文献集, 衛生動物  
7(3・4):258-264.
- 黒佐和義 (1958) カミキリモドキ類とこれによる病害について  
(有害甲虫の研究, I), 衛生動物 9(3):130-148.
- 黒佐和義 (1958) アオカミキリモドキの生態について (有害甲虫の研究, II),  
衛生動物 9(4):235-244.
- 黒佐和義・渡辺 宏 (1958) アオカミキリモドキの有毒物質について, 衛生動物  
9(3):200-201.
- Lewis, G.(1895) On the Cistelidae and other Heteromorous Species of  
Japan. Ann.Mag.Nat.Hist. 15(6):422-450.
- Matsumura, S.(1911) Erster Beitrag zur Insekten-Fauna von Sachalin.  
Jour.Coll.Agr.Tohoku Imp.Univ. 4(1):1-145.
- 三輪勇四郎 (1938) 日本甲虫分類学, 西ヶ原刊行会

宮武睦夫 (1985) 原色日本甲虫図鑑Ⅲ, 保育社

Motschulsky, V.de(1866) Catalogue des insectes recus du Japon. Bull.Soc.  
Imp.Moscou, 1866:1-38.

中根猛彦 (1954) 本邦産のカミキリモドキ類, こがねむし 4(3):1-6.

Nakane, T.(1954) New or little known Coleoptera from Japan and its  
adjacent regions, X I, Oedemeridae. Sci.Rep.Saikyo Univ.  
1(4):33-50.

中根猛彦 (1955・1956) 日本の甲虫 (29,30,31), 新昆虫 8(11):51-55,  
8(12):51-55, 9(1):55-57.

Nakane, T.(1963) New or little known Coleoptera from Japan and its  
adjacent regions, X IX. Frag.Coleop.Pars.7:30.

中根猛彦 (1963) 原色昆虫大図鑑第2巻 (甲虫編), 北隆館

Nakane, T.(1973) Notes on the Synonymy and Some Types of Japanese  
Coleoptera in Certain European Collections. II:Heteromera(1)  
(Insecta). Bull.Nat.Sci.Mus. 16(1):1-8.

中根猛彦 (1987・1988) 日本の雑甲虫覚え書 (I・II), 北九州の昆虫  
34(3):176, 35(1):1-6.

中根猛彦・伊賀正汎 (1955) 原色日本昆虫図鑑 (上), 保育社

佐々治寛之 (1985) 原色日本甲虫図鑑Ⅲ, 保育社

佐々治寛之 (1987) 日本産カミキリモドキの学名, 福井虫報 1:39.

Schenkling, S.(1915) W.Junk Col.Cat.Pars.65 : Oedemeridae, 82p.

素木得一 (1958) 衛生昆虫, 北隆館

玉貫光一 (1927) 日本産頸長虫科に関する分類学的研究, 札幌博物学会々報  
9(2):243-258.

玉貫光一 (1931) 樺太甲虫類雑記, 昆虫 5(4):157-166.

谷口和義 (1944) 日本産擬天牛類雑記 (一), 昆虫世界 48(563):132-133.